

PPPでチーム力を高め 地域間競争に挑む

W
転勤族のため、これまで大阪、福岡、仙台で生活し、それぞれの地方の良さを体験してきた。現在の鹿児島も居心地が良く、都市的生活をしながら同じ県内で歴史・自然・特産品を存分に味わえる点ではこれまで一番恵まれた環境かもしれない。ただ、実際に住んだり訪れたりしてみないとこの豊かさは伝わりにくい。鰻、鯛、牛肉が強いというのも

恥ずかしながらこちらに来て初めて知った。交流人口を増やし強い素材を磨くことはどの地域でも喫緊の課題だが、この競争に勝つためには、やはり、とにかくヒトに来てもらう必要がある、あの手この手でまちの魅力を高めなければならぬ。幸い明治維新発祥の地だけあって行政・財界ともに個々のプレイヤーは意

欲も能力も非常に高い。だが、鹿児島チーム全体としての企画力や実行力が他地域に勝っているかという疑問だ。プロ野球では有名選手を並べた球団より、チーム育成の仕掛けに成功した球団の方がAクラスに永く居続ける。地域振興・特にまちづくり分野でもよりチーム力を高める仕掛けが必要では無いだろうか。

その仕掛けの1つとして、他地域ではいわゆるPPP(官民連携)の体制づくりが急がれている。例えば北九州市はかつて百万都市で賑わったが、人口減少のスピードが早く小倉の中心市街地も空きビルが目立ち始めた。そこで5年前から官民によるリノベーションスクールを年2回開催し状況を呈している。全国から

鹿児島羅針盤



Profile

株式会社日本政策投資銀行
南九州支店長

福留 浩二氏

1966年宮崎県宮崎市生まれ
平成元年、九州大学経済学部卒業後、同年旧日本開発銀行(現政投銀)へ入行
情報企画部、関西支店課長、地域企画部課長などを
経て平成26年4月より現職

社会人・学生を集め、ある空きビルを題材にリノベーションによる活用策を競い合い、優秀案は実現させるというものだ。木造軒家がお洒落なカフェに、空き店舗がシェアオフィスに生まれ変わるなど実践例は15件に達している。また横

浜市では(官民)共創事業サウンディングと称し、廃校、庁舎建替、空地情報をHPに掲載し民間に活用アイデアを募集する仕掛けを取り入れており、新たな賑わい施設の建設や運営を民間に任せる事例が20を超えている。より大きな仕掛けとして福岡市では九州大学・市・地銀之行が官民対話の常設の場であるPFI・PPPプラットフォームを立ち上げた。多くの地元企業がPPPノウハウを習得する場として、また行政が

具体的な公有地活用アイデアを求める場としてこれも成果をあげつつある。

仕掛けには大小あるが、いずれも継続的でオープンな官民対話の場を先につくり、早期に知恵を出し合い、地域のチーム力を強化しつつ地域間競争を勝ち抜こうというものだ。鹿児島でもまちづくり分野で公有地・跡地の活用、コンベンション機能強化の検討など官民に絡む課題が増えてきた。一方、4月には鹿銀・肥後銀中心に当地でもPPPプラットフォームが動き出す予定だ。もとも歴史・自然・特産品に恵まれ名プレイヤー揃いの鹿児島も是非この機会にPPPをうまく活用し、さらに強いチームとなることを期待したい。